



東大理 1 - 1 クラ

ス会報 昭和 3 3

年 1 号

gorohaoki

駒場3.jpg

昭和33年4月10日

東京大学駒場キャンパス

名簿

逝去者：棚橋善昭、吉田辰夫、渡邊毅、稲岡進吾、吉澤正

東京大学1958年入学 理科1類33S11ACDクラス会名簿
33S1-1

No.	氏名	〒	自宅住所	TEL./FAX
0	玉木 英彦 先生	1ACD 251-0027	神奈川県藤沢市鵜沼桜が岡2-8-22	0466-22-3794仁科記念財団
1	青鹿勝之	1A 土 240-木 0113	神奈川県三浦郡葉山町長柄 1642 -298	0468-75-5616
2	内野 国光 倉	1A 応 165-物 0034	東京都中野区大和町 3-7-11	uchinokura@k.u-tokyo.ac.jp 03-3310-0599 東京大学大学院新 領域創成科学研究 科 防災科学技術研究 所
3	片山恒雄	1A 土 154-木 0016	東京都世田谷区弦巻 4-33-5 308	03-5450-5532
4	金沢紀一	1A 土 248-木 0026	神奈川県鎌倉市七里ガ浜 2-10-8	kiichi-kanazawa@kaiko.co.jp 0467-31-4535 開発工事(株)
5	川井千秋	1A 船 155-船 0031	東京都世田谷区北沢 1-42-15	03-3467-0527
6	桜井明夫	1A 物 603-理 8157	京都市北区紫野宮東町 10-3 紫野804	ルモン sakurai@cc.kyoto-su.ac.jp 075-432-6879 京都産業大学理学 部
7	竹下英一	1A 化 222-学 0024	横浜市港北区篠原台町 25-10	ETakeYokhJ@aol.com 045-431-0398 045-431-431-8398 神奈川大学理学部
8	棚橋善昭	1A 化 学 逝去		不 明
9	中島尚男	1A 電 562-気 0031	大阪府箕面市小野原東 5-9-6	0727-29-3769 大阪大学産業科学 研究所
10	中西恒夫	1A 機 243-械 0401	神奈川県海老名市東柏ヶ谷 4-11001	0462-34-0920 日立機械エンジニア リング・株
11	西山園	1A 航 466-空 0828	名古屋市昭和区山中町 1-62	tsubura@green.an.egg.or.jp 052-761-0839
12	堀川浩甫	1A 土 565-木 0824	大阪府吹田市山田西 3-52 一条池 スカイハイツB-909	horikawa@jwri.osaka-u.ac.jp 06-6876-3802 06-6876-8209 大阪大学接合科学 研究所
13	水町芳彦	1A 物 232-理 0067	横浜市南区弘明寺町 310-18 志村様	mizumach@ee.kagu.sut.ac.jp 045-731-3614 東京理科大学
14	矢口平	1A 応 389-化 2253	長野県飯山市飯山福寿町 2253	0269-62-4426
15	山川 洋一 郎	1A 応 227-化 0046	横浜市青葉区たちばな台 2-15-29	yamakawa@ff.catv.ne.jp 045-962-4695
16	吉原勲	1A 機 171-械 0014	東京都豊島区池袋 3-21-10 メゾン ・ド・オーク403	l.yshara@mbd.sphere.ne.jp 03-3983-8883 03-3983-0696 有・ヨシハラテク ノオフィス
17	吉田辰夫	1A 応 物 逝去		不 明
18	渡 毅 辺	1A 逝去		逝 去
19	岩田誠一	1C 冶 350-金 1333	埼玉県狭山市上奥富 19-13	s-iwata@gaea.ocn.ne.jp 042-954-0321
20	青木至	1D 航 183-空 0016	東京都府中市八幡町 2-18-21	iaoki@eng.tamagawa.ac.jp 042-366-6438 日本文華学園
21	安部静子	1D 化 177-学 0044	東京都練馬区上石神井 1-8-2 203	fsambe@jcom.home.ne.jp 03-3928-5741 逝 去
22	石黒満	1D 応 994-物 0063	山形県天童市東長岡 2-5-31	0236-55-4293 山形大学工学部

23	石原伸興	1D	冶 860- 金 0078	不明					昂学園
24	稲岡進吾	1D	建 逝去 築					不 明	
25	上田征治	1D	精 654- 密 0081	神戸市須磨区高倉台 2-7-4		ueda@hkg.odn.ne.jp		078-735-4749	
26	内池道生	1D	船 960- 船 8036	福島県福島市新町 7-1-2		uchiike@kkuchiike.co.jp		024-536-8230	株・ウチイケ
27	大沢義幸	1D	応 259- 物 1211	神奈川県平塚市ふじみ野 2-3-2-3		ohsawa@td5.so-net.ne.jp		0463-58-6057	神奈川大学理学部 生物科学科
28	柏倉二郎	1D	応 222- 化 0031	横浜市港北区太尾町 9-4-6-1 ハイム 1-5-0-9	大倉山	j-kashiwa@rds.rdc.toshiba.co.jp		045-542-6625	東芝TLC・株
29	久保哲也	1D	航 114- 空 0015	東京都北区中里 3-1-4-2-2		1-0-4 tkubo@infoweb.ne.jp		03-3915-9989	株・ジャムコ
30	窪田育生	1D	応 349- 化 0104	埼玉県蓮田市緑町 1-9-1-0				048-768-2090	リビングテクノ ロジィ・株
31	小出仁	1D	鉱 170- 山 0013	東京都豊島区東池袋 2-6-1 ハイツ 6-0-2	大塚台	MXE02263@nifty.com		03-3987-2778	RITE地球環境研 究機構
32	佐藤純一	1D	冶 145- 金 0064	大田区上池台1-34-10				03-3748-8092	国際メタテック研究 センター
33	鈴木光雄	1D	電 464- 気 0042	名古屋市千種区南ヶ丘 1-1-0-1-8				052-723-0505	日本原燃・株
34	高松久夫	1D	応 272- 化 0021	千葉県市川市八幡 5-1-6-6				0473-36-0043	
35	滝川雄壮	1D	地 108- 物 0073	江東区千石3-1-24-1615				03-5634-1731	気象業務支援セ ンター
36	陽太郎 田島	1D	機 590- 械 0061	大阪府堺市翁橋町 2-3-3		1-2-0-2 tajimaytr@pop21.odn.ne.jp		0722-38-8097	NS&Iシステムサ ービス・株
37	檀 良	1D	電 208- 子 0013	武蔵村山市大南4-2-1-1		1-1-2-0-5 lmdang@ceres.ocn.ne.jp		042-565-4508	法政大学工学部
38	恒石幸正	1D	地 168- 質 0063	東京都杉並区和泉 3-4-7-8				03-3323-5485	有・測振テクノス
39	英一 中井 郎	1D	応 310- 化 0804	茨城県水戸市白梅 2-3-6-0 白梅B-4-0-2	ハイツ	eiichiro_nakai@mnf.co.jp		029-246-0326	三菱原子燃料・株 、株・NFTS
40	名越英夫	1D	応 225- 化 0024	横浜市青葉区市が尾町 1-6-4-7-4		CZV0211@nifty.ne.jp		045-973-4702	日本CRO協会
41	南条道昌	1D	建 179- 築 0084	東京都練馬区氷川台 3-2-1-1		nanjo@toshiken.co.jp		03-3936-5048	逝 去 株・都市計画設計 研究所
42	本田久幸	1D	応 185- 物 0031	国分寺市富士本 1-1-8-1-3		mhhonda@mte.biglobe.ne.jp		042-575-9322	Megamedia Corp.Taiwan
43	宮本宗実	1D	数 663- 学 8006	兵庫県西宮市段上町 6-1-9-2-3		miyamoto@est.hi-ho.ne.jp		0798-53-1971	京都大学総合人間 学部
44	山崎啓三	1D	精 156- 密 0054	東京都世田谷区桜丘 3-3-2-9				03-3439-8080	山崎光学研究所
45	吉澤正	1D	応 158- 物 0082	東京都世田谷区等々力 6-1-1-1-5-2 0-4		yosizawa@gssm.otsuka.tsukuba.ac.jp		03-3702-6531	逝 去 筑波大学大学院
46	渡 治郎 辺	1D	建 136- 築 0072	東京都江東区大島 4-1-6-6-5-0				03-3685- 1738 03- 3685-1756	不 明

1. 玉木英彦（たまき・ひでひこ）の略歴：

1909年生。東大物理学科卒。1934年理化学研究所 仁科研究室に入る。52年東大教授。東大名誉教授、仁科記念財団常務理事。

2. 「仁科芳雄、伝記と回想」 定価220円 編者朝永振一郎 玉木英彦、1952年8月30日第一版
発行 みすず書房214p

感想；仁科芳雄という偉大な人の吸引力が感じられ、また20世紀の科学の断面がよく書かれています。

<http://homepage2.nifty.com/tkeizo/book1209163-j.html>

3. 著書&論文まとめ

<http://www.worldcat.org/identities/lccn-n83-37584>

氏 名 内野倉 國光

ふりがな／職／所属系

うちのくら く にみつ

専攻／大講座／分野

物質系専攻/物性・光科学大講座/超分子構造物性学

e-mail: uchinokura@k.u-tokyo.ac.jp /

http://moo.t.u-tokyo.ac.jp

略歴

1967年 東京大学工学系研究科応用物理学専攻博士

課程修了、工学博士

1967年 4月 東京大学助手、9月 東京教育大学助手

1970年 東京教育大学理学部講師

1975年 筑波大学物理学系助教授

1985年 3月 東京大学工学部物理工学科助教授

1988年 12月 同上教授

1999年 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

教育活動

大学院：低次元スピン系の物理

固体物理学(工学系)

工学部：固体物理第四、物理工学実験第一、第二

研究活動

現在の研究テーマ(1992頃-現在)

*研究室で無機質として最初にスピンパイエルズ転移をすることを見出したCuGeO₃の物性および不純物置換による反強磁性相の研究^{1, 2, 3, 4, 5, 11, 12})

* CuGeO₃周辺物質を中心とする低次元量子スピン系の物理^{6, 7, 9, 10, 13})

*ハルデン物質およびその不純物効果の研究¹⁴)

*Co酸化物の磁性、磁気抵抗等の研究^{8, 15})

*新物質の探索^{1, 6, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 15})

従来の研究テーマ

*1962-1969頃 半導体物理：特に 不純物伝導、マイクロ波伝導 光学フォノンとキャリアーの相互作用（光伝導度の波長に対する振動）

*1970-1989頃 光物性：特に半導体、低次元物質のラマン散乱

*1978-1985頃 強誘電体の研究：特に SbSI、SbSBr

*1982-1987頃 低次元導体の物性：電荷密度波等

*1985-1998頃 超伝導体（金属超伝導体、高温超伝導体）の研究

文献

1) Effect of substitution of Zn²⁺ for Cu²⁺ on the magnetic properties of La₂Cu_{1-x}Zn_xO₄ single crystals. Physica B 205 (1995) 234-248.

2) Observation of the spin-Peierls transition in linear Cu²⁺ (spin-1/2) chains in an inorganic compound CuGeO₃. Phys. Rev. Lett. 70 (1993) 3651-3654.

3) Magnetic phase diagram of spin-Peierls cuprate CuGeO₃. Phys. Rev. B 48 (1993) 9616-9619.

4) Effects of substitution of Zn for Cu in the spin-Peierls cuprate, CuGeO₃; The suppression of the spin-Peierls transition and the occurrence of a new spin-glass state. Phys. Rev. Lett. 71 (1993) 4059-4062.

5) Dimerization of CuGeO₃ in the spin-Peierls state. Phys. Rev. Lett. 73 (1994) 736-739.

6) Temperature dependent spin gap and singlet ground state in BaCuSi₂O₆. Phys. Rev. B 55 (1997) 8357-8360.

7) Discovery of spin-singlet ground state with energy gap in CaCuGe₂O₆. Phys. Rev. B 52 (1995) 3533-3539.

8) Large thermoelectric power in NaCo₂O₄ single crystals. Phys. Rev. B 56 (1997) R12685-12687.

9) Experimental evidence for Kaplan-Shekhtman-

Entin-Wohlman-Aharony interactions in Ba₂CuGe₂O₇. Phys. Rev. Lett. 81 (1998) 5410-5413.

10) BaCu₂Si₂O₇: a new quasi 1-dimensional S = 1/2 antiferromagnetic chain system. Phys. Rev. B 60 (1999) 6601-6607.

- 11) Phase transition between dimerized-antiferro- magnetic and uniform-antiferromagnetic phases in impurity-doped spin-Peierls cuprate CuGeO_3 . Phys. Rev. Lett. 80 (1998) 4566-4569.
- 12) Antiferromagnetic long-range order in $\text{Cu}_{1-x}\text{Zn}_x\text{GeO}_3$ with extremely low Zn concentrations. Phys. Rev. B 58 (1998) R575-578.
- 13) $\text{BaCu}_2\text{Si}_2\text{O}_7$: a new quasi 1-dimensional $S = 1/2$ antiferromagnetic chain system. Phys. Rev. B 60 (1999) 6601-6607.
- 14) Spin-vacancy-induced long-range order in a new Haldane-gap antiferromagnet. Phys. Rev. Lett. 83 (1999) 632-635.
- 15) Structural phase transition and metallic behavior in misfit layered (Bi, Pb)-Sr-Co-O system. Jpn. J. Appl. Phys. 39 (2000) L747-L750.

その他（社会活動など）

現在所属の学会

*日本物理学会

*応用物理学会

*アメリカ物理学会

将来計画（研究、教育、その他）

研究 量子スピン系の研究を遂行するが、（従来もそうであったように）既に興味ある物性が知られている物質について研究するのではなく、我々の研究室で発見し、あるいは開発した物質について、その物性を徹底的に研究するという方針で行う。研究室内で測定可能な測定は勿論独自に行うが、大規模な設備を必要とするような実験、きわめて専門的な技術等を必要とするような実験は専門家と共同研究で行う。その際単に試料を提供するのではなく、研究室のメンバーが可能な限り実際に実験に参加するようにする。

教育 自分で考え、自分の研究計画で研究が遂行できる大学院生に育てることが第一の目標であり、研究の面では独創性のある研究をさせたい。しかも将来的には大学院で行った研究テーマにとらわれず、どのような方面に行っても通用するような研究者を育てたい。

教官からのメッセージ

常に原理に立ち戻って考えよ。

ホームページ: <http://moo.t-u-tokyo.ac.jp/>

R&D リサーチ

<http://researchmap.jp/read0170793/>

高温超伝導体の物性 アドバンストエレクトロニクスシリーズ 1 - 13、培風

館 <http://www.7netshopping.jp/books/detail/-/accd/1101282576/>

1. あのひと検索

<http://spyse.jp/%E7%89%87%E5%B1%B1%E6%81%92%E9%9B%84/1103332>

2. 東京電機大学 未来科学部建築学科 特任教授 / 東京大学名誉教授 略歴 1971年～ 東京大学生産技術研究所 助教授,教授 1996年～ 防災科学技術研究所 所長,(独) 防災科学技術研究所 理事長 2006年～ 東京電機大学 工学部第一部建築学科(現 未来科学部建築学科) 教授,現在に至る。講演概要 この講演では,わが国の被害地震の歴史を概観した上で,1995年の神戸 ...

3. 2009年秋

片山恒雄先生（現東京電機大学教授）が2009年秋の叙勲で瑞宝中紋章を受賞致しました。 <http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/katayama/katayama.html>

4. 研究者マップ

<http://researchmap.jp/read0121196/>

5. 科研

<https://kaken.nii.ac.jp/d/r/70013216.ja.html>

1. 勤務した特殊法人 電源開発㈱のあらまし

1962年に同社に入社した。同社は大規模水力開発を目的として設立され、10年を経過していたが、水力開発という点ではやや最盛期を過ぎていた。その後、水力開発は減少、小規模化し、現在ではかなり限定的となっている。一方、エネルギー供給の主流が水力から火力・原子力に移るにつれ、電力の調整設備としての大規模揚水発電所へのニーズが高まった。近年では、これらの水力開発に関しては、環境問題が大きくクローズアップされるようになっている。

他方、同社はエネルギー源の多様化の一環として、大規模な輸入石炭火力発電所を建設するようになった。

原子力については、Full-Hox対応の軽水炉を建設すべく現在準備中である。

電力の供給力がほぼ充足され、自由化に伴う新規参入も見込まれる現在、開発会社としての役割を終了しつつある同社は民営化を決定し、準備に入っている。このような状況の中、2000年に同社を退職した。

2. 歩んで来た道

水力については、揚水発電を含め、調査、計画、設計、施工管理に携った。一時期特にロックフィルダムに関わる事が多く、石川県の手取11ダム（高さ153m）など、いくつかのダムの設計や施工に携った。この間にダムの地震時の挙動や基礎の浸透流の挙動について研究する機会を得、それらについて論文を作成し、学位を頂いた。その際には同窓の片山恒雄君にもご指導を賜った。近年には、福島、新潟の県境にある奥只見のイヌワシの保護と水力開発の調和に関する業務に大きく関わった。

火力については、土木設備の設計や施工の他に発生する石炭灰の有効利用に関する研究を行った。

原子力については、主に地質、地盤、活断層、地震活動等の調査を担当した。

3. 現況

現在は、電源開発㈱の関係会社の経営に携っている。個人的にはエネルギー供給と環境問題について、強い関心を有している。

量子力学と玉木先生

2001. 11. 10

S33クラス会のために 桜井 明夫

私は玉木先生から直接に量子力学を教えていただいたわけではない。先生の関係する論文を読ませていただいたことも、専門が違うのでない。

唯一の思い出は、駒場の一年生のとき担任の玉木先生の研究室で4・5人ずつ昼食を取った時の事である。先生は量子力学について“シュレーディンガーの波動方程式とハイゼンベルクの行列の表示とは全く同じなのだよ。それが分かったときは本当に嬉しかった、山に登ったらあっちから上った道もこっちから来た道と同じ頂上に達していた。”と御自分の体験を、本当に嬉しそうに晴れやかに語られた。当時の私は何のことかもさっぱりわからずに、ただその世界に大きなものを感じただけであった。

三年生になって進学した物理学科で、同好の友人達と輪講したのがディラックの名著で、その訳者には玉木先生が入っておられる。朝永先生たちと合宿をしながら議論を戦わせて翻訳されたお話は玉木先生からまたどこかでお聞きした記憶もあるが、この本は現在でも、物理をやろうと意気込んでいる学生ならば、漢字が旧字体で分からないといいながら読んでいる不朽の書物である。

私自身は物性物理学の理論が仕事なので、量子力学は主に使う立場である。しかし1927年に完成したという量子力学の中に含まれている内容がこれほど豊富なものかは、近年になって技術の進歩とともに明らかになってきたことで、改めて量子力学に驚き魅せられている。

その中でも最も魅惑的なことは量子状態の非局所性である。つまり遠く離れたところと今いるここが状態としてつながっていて一つであり、からみあっていることがありうるという事実である。こんな不思議な事は普通の人間には理解できない。理解できなくてもそれが事実であり理論上の矛盾もないならば受け入れなければならない。(大学で物理を教えているながら、実は分かっていない事を教えているのだなと感じるのは統計力学と量子力学である。)そしてそれを腕組みして考え込むだけでなく、積極的に使っていくのが21世紀である。

量子力学は原子核や分子のようなミクロな世界だけに通用するのではなく、日常のマクロな世界をも支配している。その事実を基に、量子通信や量子暗号、そして量子コンピュータの研究がさかんになっていて、私も人間の持つ常識や情緒をひとまずはよそにおいて、この分野に首をつっこんでいる。そのなかから、伝統的な解釈とは違う量子力学の解釈が生まれてくるかもしれない。

玉木先生はどうお考えでしょうか？

現代の量子力学

<http://blog.goo.ne.jp/ktonegaw/e/a6ce1bc17d265ec766198418965a2c37>

2001年11月9日記

神奈川大学理学部非常勤講師

(担当：生物工学、生物化学産業論)

竹下英一 ETakeYokhJ@aol.com

1. 経歴、専門など

世間並みの「専門」とは縁遠い道を行ってきたと自覚しています。これは戦後の経済成長期に巡り合わせたためと自称していますが、実際は、ささやかな疾風怒涛の節々でフロンティアと思えた方向へ舵を取らせた「気まぐれで、熱しやすく冷めやすい」DNAの仕業に相違ありません。そうかといって、変えようのないことですから、悔やむ気持ちは起こりません。折々の出会いを中心に簡単にまとめますと以下ようになります。

- ・ 昭和37年理学部化学科卒、卒論は有機化学反応論。語学と実験が好きなのでだけのため学生であったが、卒論指導の故島村修教授には勝手に私淑するところがあった。
- ・ 同年三菱油化(株)入社、四日市工場の合成樹脂製造プロセス開発部門配属。おらかな時代であり先輩もよく教え導いてくれた。触媒開発では大魚を逸したが多くの勉強をした。
- ・ 昭和43年、結婚と前後して本社の新事業企画立ち上げ部門に移った。以後退職まで、新規合成樹脂、医療関連事業、発酵化学品の順に、こわいもの知らずで次々に担当。
- ・ 昭和47年、導入技術の実習のため1ヶ月間渡米、この時実用英語の基本が固まった。
- ・ 昭和53年頃、新会社で一緒になった元帯広獣医畜産大助教授の部屋に毎日入り浸って、今日に至るその後の仕事の基礎となった広範な応用生物学を教わった。感謝している。
- ・ 昭和55年、専修大学神保町キャンパスの経済学部夜間部に学士入学、2年後卒業。
- ・ 昭和59年、遺伝子組換え技術を利用した化学品の事業化担当と同時に、各種研究組合や業界団体を通じた国家プロジェクトの運営に参画、社外の同類の知己が一層に増えた。この頃から欧米出張が多くなった。
- ・ 平成元年、業界団体「生分解性プラスチック研究会」(<http://www.bps.net>)を同志と立ち上げ。「先がどうなるか全く読めないところがやりがい」と思った。本会は皆のがんばりで今も健闘している。
- ・ 平成5年、55歳直前で定年を繰り上げてもらい退職、全ての社外兼務職も退いた。会社の中での先も短いし、後輩の邪魔になるだけと思ったため。退職直後に三菱化学が誕生。
- ・ 平成6年、生分解性プラスチック開発普及活動を通じて知り合っていた縁で、神奈川大学平塚キャンパスで生物科学科の学部学生を教えるかたわら、アメリカ穀物協会のコンサルタントとなった。いずれも非常勤。後者は平成12年に契約終了。
- ・ かねてから、生分解性プラスチックの用途開発に関連のある生ごみなど有機性廃棄物の生物処理利用の促進を説いていたが、平成12年に産学協力団体「日本有機資源協会」(<http://www.jora.gr.jp>)が発足、現在その国際交流専門委員会を主宰している。
- ・ 近著として、昔の仲間との共訳による教科書「地球環境の化学」(学会出版センター)あり。せいぜいごひいきに。

2. 今考えていること

会社を辞めた時に予想したとおり、60歳過ぎから気力体力は着実に衰えてきています。なまけ心もだんだんふくらんできました。生来の好奇心の残り火を時々風を送ってあおるのが関の山です。はたち前後の若者約百人と毎週接することができるのは大変な幸せです。

さて、今考えているのは「ネット百科全書」を作りたいということです。とりあえずは講義用教材の一部を個人のホームページ(<http://members.aol.com/ETakeYokhJ/et0.htm>、プロバイダーの無料サービス枠利用)に載せるのが目標ですが、口幅ったいい方をすれば、「良質、正確な情報、特に科学や技術に関するそれらを、全く

の素人でも理解でき、かつ身に着けられるような表現方法で、豊富に提供する」ことは、私のようなものの責務であると思うからです。まだ準備段階を出ませんが、同様の関心のある方がいれば、「著作権は原則として放棄」「所属団体の干渉を受けない個人の仕事とする」「互に自由にリンクし合い、束縛し合わない」など、共通のプロトコールの相談を始めてもいいと思います。

地球環境の化学

<http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opc/recordID/catalog.bib/BA48300947?hit=-1&caller=xc-search>

堀川浩輔（ほりかわこうすけ）

1938 (S13)年 9月 東京生まれ。

1962 (S37)年 3月 東京大学工学部土木工学科卒業、

1967 (S42)年 3月 同 大学院博士課程終了（工学博士）。

1967 (S42)年 4月 東京大学講師（工学部土木工学科）を振出しに、

1969 (S44)年 4月 同 助教授、

1970 (S45)年 4月 東京都立大学助教授（工学部土木工学科）を経て、

1978 (S53)年 4月 大阪大学助教授（溶接工学研究所）。

1987 (S62)年 6月 同 教授に昇任、

1996 (H 8)年 5月 研究所の改組により大阪大学教授（接合科学研究所）となり、

1998 (H10)年 5月から2000年3月までの間 大阪大学評議員を併任し、現在に至る。

2002(H14)年 3月 定年退職予定

技術士（建設部門）

品質システム審査員補

専攻は溶接構造学。長大橋梁、高落差大容量水圧鉄管の設計・施工に関する研究に長く携わっているほか、供用中の構造物の溶接による補修・補強、溶接継手の非破壊診断、溶接施工における品質マネジメントなど溶接構造学の全般にわたっているが、接合体のディペンダビリティに関する学問の体系化にも着手している。

日本学術会議溶接研究連絡委員会委員、国際溶接学会（IIW）第XV-F（設計と施工の相互作用）委員会委員長、日本溶接協会理事のほか、溶接学会、土木学会などの各種委員会の委員長を勤め、阪神高速道路公団技術審議会委員、本州四国連絡橋鋼上部構造委員会委員、韓国釜山市広安大路建設施工諮問委員会委員などとして実務の指導にも関与し、さらには私塾とも言うべき鋼構造製作技術研究会を主催し、斯界技術者の相互研鑽と連帯の強化を図っている。

また、日本工業標準調査会専門委員会委員長、国際標準化機構（ISO）第44（溶接）技術委員会における日本代表（Delegate）、ヨーロッパ規格委員会(CEN)へのISO RepresentativeならびにIIW標準化委員会副委員長、日本溶接協会規格委員会委員長として溶接に関連する国際規格の開発、日本工業規格（JIS）の整備と国際統合化に励み、日本適合性認定協会要員技術委員会委員長としてISOの枠組みによる適合性評価のための要員相互承認の展開にも努めている。

大阪大学においては、評議員、溶接工学研究所（改組後は接合科学研究所）運営委員のほか、入学試験、学生生活、国際交流など各種委員会委員として大学の運営に参画している。

さらには吹田市国際交流協会理事、吹田市立西山田小学校PTA会長のほか、西山田地区自治団体協議会を創設し、その初代会長を勤めるなど地域社会にも協力している。

著書には「鋼構造の製作と施工」など。これらの業績により

1987 (S62)年 5月28日 社団法人土木学会「田中賞（論文部門）」、

1994 (H 2)年 7月 米国土木学会（ASCE）「FELLOW」の称号、

1996 (H 8)年 4月 4日 社団法人溶接学会「業績賞」

2000(H12)年 7月 9日 国際溶接学会（IIW）「Guerrea Medal」を授けられている。

定職後は Free Lancer として自由を楽しむことを夢見ている。

[主要論文] 省略

疲労き裂伝播速度に及ぼす溶接残留応力の影響

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110003421753>

水町芳彦

産学プラザ

<http://www.sangakuplaza.jp/page/120763>

緒言 KEK

[http://accwww2.kek.jp/oho/OHOtxt/OHO-1986/shogen-](http://accwww2.kek.jp/oho/OHOtxt/OHO-1986/shogen-1986.pdf#search='%E6%B0%B4%E7%94%BA%E8%8A%B3%E5%BD%A6+%E6%95%99%E6%8E%88')

[1986.pdf#search='%E6%B0%B4%E7%94%BA%E8%8A%B3%E5%BD%A6+%E6%95%99%E6%8E%88'](http://accwww2.kek.jp/oho/OHOtxt/OHO-1986/shogen-1986.pdf#search='%E6%B0%B4%E7%94%BA%E8%8A%B3%E5%BD%A6+%E6%95%99%E6%8E%88')

2003年近況

<http://www.geocities.jp/shotou4/mebrept2003.htm>

青木 至 様

クラス会には欠席いたしますが、通知案内にありました紙上参加を試みることにいたします。

経歴

1962 東大理学部物理学科卒

1967 東大理学系大学院博士課程修了

1967 東大工学部物理工学科の助手に就職

1974 文部省高エネルギー物理学研究所に就職

(つくば研究学園都市という名の田舎に住む)

1995 東京理科大学工学部電気工学科に就職

(都会が恋しくなって22年のつくば生活を切り上げる)

(親方日の丸の職場から親方火の車の境地へ転身)

仕事

主に粒子加速器という分野で原子核実験あるいは高エネルギー物理学実験で使われる装置の開発などをやっていました。いまの大学では人間の脳波の解析ということを始めましたがまだぜんぜんものになってはおりません。家族事情 1968に結婚、1969に長男(一人っ子、まだ独身、数学専攻、求む伴侶) 健康 特に持病なく健康状態は良好。それほどひどくはない近視でしたが老眼の進行のためか近眼が改善されました。杜甫にある「白頭搔けばさらに短く簪に耐えざらんと欲す」。元々背が低い方ですが最近のデータでは1年に2ミリメートルずつ背が低くなっています。以上が簡にして要を得ない我が履歴書です。2005に現在の大学で定年を迎えますので、その後の再就職のための履歴書でもあります。

水町芳彦 東京理科大学 工学部 電気工学科 東京都新宿区神楽坂1-3 郵便番号162-8601 T e l

ダイヤルイン03-5822-8327

03-3260-4272 内線3329 F a x 03-5261-

4805

弁理士

[http://samurai-search.sigyo.net/search/page/3?](http://samurai-search.sigyo.net/search/page/3?area=2&address=%E9%95%B7%E9%87%8E%E7%9C%8C&sex=2&submit_x=59&submit_y=8&submit=%E6%A4%9C%E7%B4%A2)

[area=2&address=%E9%95%B7%E9%87%8E%E7%9C%8C&sex=2&submit_x=59&submit_y=8&submit=%E6%A4%9C%E7%B4%A2](http://samurai-search.sigyo.net/search/page/3?area=2&address=%E9%95%B7%E9%87%8E%E7%9C%8C&sex=2&submit_x=59&submit_y=8&submit=%E6%A4%9C%E7%B4%A2)

昭和電工（株）36年勤務

（1）大町工場に15年間勤務

生れ故郷（信州安曇野・穂高）に近い大町工場でアルミニウム製錬の技術開発および環境・製造の仕事に従事。

この間、約1年間フランス政府技術留学生としてリヨンのI N S A（リヨンエ科大学）でアルミ製錬の基礎研究に従事。この時ストラスブールでクラスメートの棚橋さんのお宅を訪問。

尚、大町工場は北アルプスの豊富な水力電気を活用する為に日本で初めて、国産技術でアルミニウムを工業的に製造した工場であり『日本のアルミニウム製錬発祥の地』である。

2）東京の本社に21年間勤務

電力の塊といわれるアルミニウムは、オイルショックにより日本での生産は困難となり、国内の電解工場は、大部分が11頂次シャットダウンされる運命を辿る。

アルミ製錬技術者から、特許屋に転身（弁理士資格取得）。時あたかもプロパテントの時代を迎え、多忙かつ充実した毎日であった。

3° 昭和電工（株）退職後

2年前に、妻の郷里である、奥信濃の城下町飯山市に転居、文字通り『晴耕雨読』の生活を送っている。現在、弁理士として地域社会に貢献できないか模索中。

<<

吉原勲

有限会社 ヨシハラテクノ

<http://www.ince-j.or.jp/06/page/doc/NINTEIGISHIc.html>

これまで

1. 材料表面、界面評価と半導体デバイス特性との対応付け

X線光電子分光 (ESCAまたはXPS) による各種材料の表面、界面分析を超高集積回路のプロセス開発や不良解析に応用してきた。一つの目標は、製品の複雑な製造工程の途中段階で、そのプロセスの良否を評価できる手法の探索であった。

Si半導体の記憶素子の心臓部とも言えるSiO₂/Si界面付近の電子欠陥の低減と制御は、よい特性を得るために不可欠であるが難しい。この欠陥は微量であるので、ESCAの普通の測り方では検出できない。本研究では、通常の測定の障害となる帯電現象に着目して、これが上記欠陥に起因するものであることを明らかにするとともに、この帯電の測定によりこれらの微量欠陥を検出する方法を考案した。^{1,2,3)} この方法は、従来の欠陥測定法 (容量-電圧法) では難しかった膜厚数ナノメートル以下のSiO₂にも使える有望な評価法である。

1) S. Iwata and A. Ishizaka: "Electron Spectroscopic Analysis of SiO₂/Si System and Correlation with MOS Characteristics", Applied Physics Reviews (J. Appl. Phys.), 79 (1996), 6653-6713.

2) 岩田誠一、山本直樹、矢野史子: "ESCAによるSiO₂/Si内の電子トラップ、正孔トラップの検出"、日本金属学会誌、60(1996)、469-475.

3) 岩田誠一、大路譲、石坂彰利: "Si上極薄SiO₂膜帯電のX線照射時間依存性"、日本金属学会誌、60(1996)、1192-1199.

現在

1. 上記微量電子欠陥検出手法の確立

デバイス特性測定に勝る検出能を達成するために、測定値をばらつかせる要因を検討した結果、装置の温度制御、装置の設定条件のより精密な制御等を行う必要があることが分かり、現在、この方向で改良を進めている。これが成功すれば、10⁹ cm⁻²台以下の微量欠陥とその電荷の符号やその種類に関する情報も得ることができる。

2. 人間が「自分で考えて、判断、行動できるか」ということについての考察

最近のニュースを見ると、教育でも、研究でも、社会全般においても、人間の特性とされる「考える」ことができなくなった人間 (私を含め) が多くなっていると感じられる。これが発端になって、現在、これまでの自分の研究における問題解決のための「考え方」を整理、反省している。その過程で、課題は様々で、異なっているも、問題解決のやり方には共通したところがあることが分かってきた。このようなことから、人間が「考える」ときのやり方 (筋道) があるのではないかと (人により違うとは思われるが) と考えるようになってきた。自分がどのように「考える」かなど、これまで意識して考えたことがなかったので、このことをもっと論理的に、系統的に、定量的に調べるために、「ベイズ統計学」の立場から、自分の「考え方」の検討を始めている。なお、現在は無職である。

現在

* 日本文華学園 理事

<http://www.bunkagakuen.ac.jp/>

* NAPRA 会員

<http://www.jade.dti.ne.jp/~y-yamada/>

1. 最近の講演資料集

<https://apps.facebook.com/msdocscanvas/?>

fb_source=bookmark_apps&ref=bookmarks&count=0&fb_bmpos=2_0

2. ホームページ&ブログ

<http://iaoki.jugem.jp/>

<http://www.geocities.jp/iaoki/>

3. 研究論文、特許（略）

青木 至 (Itaru Aoki)

略歴 1. 小石川高校、航空学科（卒論）周辺固定矩形板の固有振動解析、小林繁夫教授

2. 富士製鉄(株) 中央研究所（1962-4）

3. 新日本製鉄（株）名古屋製鉄所(67-84)・ニューヨーク事務所(84-90)・本社

4. 玉川大学工学部経営工学科（1996-4）

5. 十文字学園女子大学（2003.4~）

専門 1. 鉄鋼生産における圧延工程の数値制御解析

（学位論文）非定常圧延現象に関する研究 大阪大学工学博士

2. 自動車用鋼板の成形加工に関する数値制御

（日本塑性加工学会会田技術賞）プレス成形に関する研究

3. 経営管理工学に関する統計学的解析

4. 論文, 著書など約80件、特許及び実用新案など30件

現職 1. 玉川大学工学部経営工学科教授

講義科目：管理工学、数理統計学、機械工学、金融工学、技術英語

2. ISO/TC17（鉄鋼製品規格）常任議長一加盟国60カ国

3. 学校法人日本文華学園 理事

4. 通訳案内業（免許証 第4007号）

解説：本郷を出てから、34年間にわたり日本を代表する製鉄会社に勤めていた。従って、公的にも私的にも私の生涯は、この会社での活動に密接な関係があることを否認しない。航空の小林先生から弾性学を教えていただいたが、企業では、塑性変形に拘り続けて、業務を中心として、これで博士論文を作成した。会社では研究、管理、工場、海外事務所、本社などを経験したため、最後は帰属不明になり、いくつかの大学で非常勤講師をしていたことを切っ掛けとして、現在の大学に転職することになった。学部では、機械工学概論、品質管理システムと実験、工業英語、大学院では数理統計学の応用として金融工学、確率微分方程式論などの講義を担当している。65歳で退任することになっているので、平

成15年3月まではこの大学に籍を置く。男の子が二人で、長男はNEC、次男は米系の保険会社に勤めている。二人とも丁度私がNY勤務のときの関係で、アメリカの中学と高校を出ている。先生の立場になって学生を指導してみると、駒場時代のことが思い出される。時代の状況が全く違うので、直接的な比較は出来ないが、学生気質はそんなに変わってはいないと思う。私が学生に言えることは、選択した人生に後悔するな、その時々で最善を尽くす以外には道はない、と言ったことだ。確かに学生の学力は落ちている。教育の変革は国が金や口をだすことではなく、教師の資格も含めて教育を自由化することと思う。私の息子たちもアメリカの教育に接してから、より以上に元気になっていったように思う。今後：日本の将来は決して明るくはない。何故なら、みな本音での議論を避ける。嫌いな言葉に「総論賛成、各論反対」がある。英語で「はい、違います」と言うのと同じ矛盾だ。また、率直さがなく、事大主義が罷り通り、慇懃無礼が横行する。すべて良好な方向に向かっているならば、それでも何も問題は起こらないが、躓くと立ち直れない。もっと自由な雰囲気での英才教育にかけてみたい。アメリカでの7年間の快適な生活が未だに忘れられない。老後は海外で暮らす予定。

安倍（伊藤） 静子

論文

<http://sc.chat-shuffle.net/human/id:793760>

岩手県立花巻北高等学校

<http://www2.iwate-ed.jp/hkn-h/dousou3.html>

このところのこと

2001年10月16日

上田征治

年金生活に入って三年、ボランティアで、身障者の車椅子を押したり養護学校生徒の通学の介助をしたり、会社勤めの頃とは様変わりの生活をしている。

神戸製鋼所では役職定年まで建設機械、主にローダーから油圧ショベルの設計を担当し、溶接構造の疲労強度について実物を壊しながら確認をやった。東南アジアへの売込みにも行った。終わりが通産省のプロジェクトで500トンの超大型油圧ショベルを三菱重工と共同で製作し、豪州の石炭山で足掛け三年、表土剥ぎで実機試験を続けた。関係会社のナブコに移り、5年ほど、油圧ショベル用の走行ユニット（減速機+油圧モータ）を製作、米国や韓国に売り込んだ。ここでも歯車の疲労強度を実験的に確認していた。

このところは、健康のため初めに書いた週二回のボランティアをネタに、その施設まで歩いて往復するとか、足りなければ団地の中を通っている六甲全山縦走路56キロの一部を使わせてもらって、ハイキングやら探鳥やらで歩数を稼ぐことにしている。が、一日一万歩は難しい。この秋には、この辺が鷲・鷹類の渡りの通り道であることを見つけた。運動もしよう、と水泳も試してみたがプールのカルキが強すぎて、せっかくド近眼用の度付きのゴーグルまで買ったのに一度行っただけで二の足を踏んでいる。学生時代のテニスにはご無沙汰。ゴルフも米国で道具を買ってまできた位だけどうまくならないのでやめた。

ボケ防止では、ナブコでの売込みで何回か行った事もあるので、韓国語の講座へ週一回通っている。先生が在日の美人のせいもあるが、片言までは来た。欧米語と違って日本語と語順がほとんど同じことと、動詞の活用にあまり気を使わなくていいのが楽。西洋一辺倒への反省もあったが、この韓国語も、日本の古代史に関心があった事と関係している。最近、「古代韓国語で読むと、万葉集は当時の政治への痛烈なメッセージであった」という本を読んで面白がっている。でも韓国にはわれわれをひきつける魅力がもともと乏しいようだ。ヨーロッパなんかでは、オペラ、バレエなど、生活を楽しむ文化が残っているのに。知らない、判らない、だけかもしれないが。でも食べるほうは楽しい。

呑む方では、東洋医学に惹かれて鍼灸師になった優秀な元部下の勧めで、長年純米酒ばかり呑んでいたが、このところ残るようになっていたので、今はジン&トニックに氷を入れ若干水を足して飲んでいる。眠り薬だが、すっきりした口当たりで、体から抜けるのが速い。

楽しみの一つとして海外旅行を何年かに一回ぐらい。この9月にはテロの一週間後からプラハ、ウィーン、ブダペストへ。機内食のナイフがプラスチックになっていたのと、帰国便に行列ができる、と、いつもより一時間も早く空港へ引っ張り出されたくらい。

今まで会社中心の生活から、地域中心の生活になって、肩書きのない生活になり、機械とも縁が薄れた。これはこれで気が楽でいいが、若干のさびしさも残っている、というところが本音でしょうか。（なお、阪神淡路大地震では、食器が数枚割れたくらいの軽微な被害で済みました。）

〒654-0081 神戸市須

磨区高倉台2-7-4

Tel&Fax 078-735-4749

Eメール uedas@hkg.odn.ne.jp 以上

大澤義幸

氏名大 沢 義 幸

現住所〒259-1211 神奈川県平塚市ふじみ野 2-32-3

TEL/FAX: 0463-58-6057, E-mail: ohsawa@td5.so-net.ne.jp

1962年 3月東京大学工学部 応用物理学科 学士課程、修了

1964年 3月東京大学数物系大学院 応用物理学科 修士課程、修了

1964年 4月 東洋紡績(株)入社、繊維技術研究所に勤務

高分子固体物性、合成繊維の紡糸の研究に従事

2成分系(溶媒、高分子)について、ノズルから吐出して糸として巻き取るまでの間の径、温度、濃度変化を、物性値と紡糸条件を与えれば予測できる式を導いた。事務用コンピュータを使って数値計算をし(今でいうコンピュータ・シミュレーション)、実測値で確かめた。

1970年12月(株)日立製作所入社、神奈川工場(現、エンタープライズサーバ事業部)に勤務

コンピュータ用多層多層プリント配線板、セラミック配線板の製造プロセス開発、生産技術確立および品質管理に従事

シート成形、接着、印刷、感光、焼結、めっき、機械加工など、多彩なプロセスを経て、1枚の配線板ができる。納期と原価低減が最優先で、1つ1つの工程とその絡み合いをじっくりと解き明かす暇なく、現場的対症療法で良品を捻出するのが精一杯の毎日を過ごした。

1999年2月日立製作所定年退職

2000年4月神奈川大学理学部応用生物学科 非常勤講師

東海大学工学部電子工学科 非常勤講師

何れも、科学英語担当

2001年4月神奈川大学理学部生物科学科 特任教授

理学総合研究担当

大学で応用物理を専攻したが、卒論指導を受ける研究室決定のさいに、定員以上の希望者となり、じゃんけんに負けて、最終的に応用物理では異色の高分子を扱う研究室で修士課程を修了することになり、繊維会社に就職し、上記のような人生を送ることになった。出発は研究者として、転職後は技術者として仕事をし、科学、工学の広い分野に接することができた。その間、多くの人がそうであるように、生命とは何か、生物はどのような法則に操られて生まれてきたのかなどについて知りたいと思う気持ちがずっとあった。一方、中学、高校まで遡ると、英語の勉強をなんとなく途中で止めて、やり残してきたなという感が続いていた。

そんな折、2年前のこの同窓会で竹下兄の神奈川大学勤務の話しがきっかけで、偶然にも現職への道が開けた。これまでの経験を紡ぐ糸ができ、有り難いことに、現在は、勉強しながら学生に授業をしている身です。学生にはぼろが見破られないように、学生の何倍もの時間をかけて予習をして授業に臨んでいます。学生もついてきてはくれるのですが、議論を吹っかけてくるところまではいかないので、なんとかもって元気を出すようにしむけたいと思っています。日本の将来を憂える一人です。

私の年齢も父が亡くなった55歳をすでに7歳過ぎてしまい、いまこうして生きている自分と比較してみると、“父の寿命は短かった”と改めて思い返される。外科医であった父は警察の事件で、法医学関係の仕事で死体の解剖などにも携わることもあったせいか、酒はよく飲みかつヘビースモーカーでもあった。亡くなったときの病名も縦隔どう腫瘍というそれ程ありふれた病名ではなかったことを覚えている。昭和40年当時、母や家族の者はみな、毎日の新聞の死亡欄を見ては、“父と比べても世の中には不幸にして早くなくなる方もあるのだなあ”と思うこともあった。父のことを運がなかったと評する母ではあったが、母にもタバコを吸う習慣があった。それも煙管で吸うのである。それには面白い経緯があった。昔、祖父、すなわち母の父も同じようにしてタバコを吸っていたらしい。何かの折に、小さかった母は煙管を弄びながら口に入れることがあったらしい。それがタバコを好きになった理由という。でも、何時ごろのことであったか、健康のためすっぱりと止めてしまった。私を含め家族のものは母が肺癌になるのではないかと心配していたが、杞憂に終わった。祖母、すなわち母の母と同じく乳癌に掛かったが、自分でしこりをみつけて手術し病気に打ち勝ったので、運が強かったのであろうか、現在も長生きしている。私にはタバコをすう習慣がなかったが、小さいときに玉蜀黍の毛をタバコに擬して火をつけて遊び、怒られて灸をすえられたことがあったが、このために吸わなかったわけではない。遺伝的には同じでも人の好き嫌いは一様にはいかないらしい。

私の次の世代の命の繰り返しとして、女の子と男の子を一人ずつ授かった。子供たちは塾通いすることもなく悠々、遊々と自分の道を進み、予備校がよいの1年後、私立大に入り卒業した。私たちのころは国立大と私立大とでは大差であった授業料が今ではそれほどではなくなっている。郵便局の学資保険に入って学費に備えていたが、これだけで賄えるはずもなくボーナスが学費に化ける数年間を過ごした。時々、子供たちには、お前たちの子供の教育には苦勞するだろうね、とからかっている。このような子供たちであったが、自分の伴侶は自分で探してきて、長女は“お父さんお母さん、これまで育てていただいて有難うございました”とあって今年の7月7日に自分たちの力で結婚式を挙げて家を離れていった。長男もこれに関しては負けず劣らずで、大学時代からガールフレンドを見つけており、いずれ結婚するらしい。“生きる旅 何を求めて進むのか”。

卒業後の40年を振り返る

2001.11.10

久保哲也

あらためて卒業後の40年を振り返ってみると、下表に示すようにいろいろな仕事をやってきたことが分る。

では自分のコアコンピテンスは何かと考えて見ると、やはりメーカーで最初に担当した航空機パフォーマンスエンジニアリングと、引続き担当したオペレーションズリサーチであるように思われる。その後エアラインに移ってから担当したことはこれら二つのコアの応用であったという感じである。またこの間大学で習ったことが役に立ったということを感じたことは殆ど無かった。

私にとっては最初の職場で良い指導者がいて、確りした実務のこなし方を経験できたことは幸せなことであった。社会へ出て最初に経験する担当分野と職場の文化（指導方針や実務のやり方）がその人のその後にとって極めて重要であると実感している。

ある分野で確りした仕事のこなし方を身につけさえすれば、何をやっても3年で一応の専門家、5年で日本トップクラスの専門家となることはそう難しいことではないと感じられる。自分の場合二つのコアコンピテンスに加え、航空機整備管理、安全管理、ヒューマンファクターズの3分野もコンピテンスとして身につけることが出来たと考えている。

必ずしも恵まれた職場ばかりでは無いことを考えると、社会に出る前の4年間の大学教育で、確りした問題解決の体験が出来るよう大学のあり方を工夫することが、若い人たちの育成にとって極めて大事なことではないかと愚考している次第である。

1962年4月～1967年3月

日本航空機製造(株)でYS11の性能計算、性能試験飛行、フライトおよびオペレーションマニュアル性能関係章作成等を担当。（航空機パフォーマンスエンジニアとしての専門知識習得）

1967年4月～1972年2月

航空工業会ORセンターおよび日本航空機製造でYS11後継機のマーケットリサーチを担当。（マーケットリサーチおよびオペレーションズリサーチの専門知識習得）

1972年3月～1975年6月

全日空へ入社。技術部および総合安全推進委員会事務局で安全問題、騒音問題、燃料節減対策、技術企画等を担当。（安全問題の専門知識習得および技術企画業務を経験）

1975年7月～1984年6月

運航技術部性能技術課課長代理および課長としてエアラインとしてのあらゆる性能問題を体験。新機種選定や要求仕様取り纏め作業に参加。（パフォーマンスエンジニアとして世界の最先端に到達）

1984年7月～1986年6月

技術部技術管理課長として整備技術の取りまとめ業務を担当。（メンテナンスリクワイヤメントの専門知識を習得）

1986年7月～1991年6月

機体工場生産管理部長、副工場長、工場長として生産管理および工場経営を担当。（整備生産管理の専門知識を習得）

1991年7月～1993年6月

総合安全推進委員会事務局長として安全問題、事故調査、ヒューマンエラー防止対策、環境保全推進等を担当。（ヒューマンファクターズの専門知識を習得）

1993年7月～1999年6月

取締役整備本部副本部長、本部長として整備業務の総括経営を担当。

1999年7月～現在

(株)ジャムコ代表取締役副社長として社長補佐および品質保証・環境保全を担当。

小出 仁

R&D リサーチ

<http://researchmap.jp/koideshk/>

アンダーグラウンド

隠れたフロンティア

https://www.gsj.jp/data/chishitsunews/84_11_07.pdf#search='%E5%B0%8F%E5%87%BA%E4%BB%81!

佐藤純一

<<

佐藤純一

国際メタテクノロジー研究所所長

鈴木光雄

卒業後、電気事業に入り爾来、約40年、火力発電及び原子力発電の分野に携わってきました。

多くの方がそうであったと思いますが、社会人となって10年間は高度経済成長の波に乗り、私
の場合は、新鋭火力発電における米国技術の導入とその定着化に従事しました。

そして、オイルショック。エネルギー資源の海外依存度が著しく高い日本
としては、原子力を準国産エネルギーとして開発利用しようという方針の下で、約30年間、原子力に携わって
来たというのが私の職歴の大筋です。

ご承知の通り、原子力発電に関しては、原子燃料
サイクルとゆうものが付随して必要でありましたが、いま、私は、このサイクル事業をやっております。即ち、4年
前に電力会社から転籍して、青森県の日本原燃株式会社に勤務しております。エネルギーセキュリティから
も地球環境保護の点からも、大事なことの認識にたつて、安全を旨として意気を感じてやっております。

家族

を名古屋においての単身赴任ですが、青森も住めば都、自然の豊かな良い所です。

近くへお越しの折は、ご一報ください。

東大三鷹クラブ

講師 気象庁長官 滝川雄壮氏 テーマ 「気象予測」

今回は昨年気象庁長官に就任した滝川雄壮氏に「気象予測」について話して頂くことになった。最新の衛星情報によるモノや昔ながらの観測方法やコンピュータ解析からコンピューターによるものまで、久々の理系の講師のお話です。以下石崎勝義氏の紹介要旨。昭和33年に入寮してすぐ西寮の3人部屋で滝川雄壮、楠本欣史と同室になった。3人とも話しが好きで話し始めると止まらないので、「勉強時間を決めて、その間はお互いに語りかけない」というルールをつかったが、勉強時間が終わるのを待ちかねてよくダベッタ。滝川は身の回りのことにもいろいろ自分の考えがある。人の言うことも「そうか、そうか」と面白がってよく聞く。自分の考えと違くと、「そんなことねえと思うよ」と広島弁まじりのペランメー調で言い始める。ユニークな見解だが、彼の経験を根拠にしている判りやすい。そのうち他の部屋に出かけたりした。亡くなった三谷氏ともよくダベッタ。他の部屋からも声がかかる。滝川は人気があった。いま考えて感心するのは、就寝時刻を11時ときめて、おおむねそれを守ったことだ。授業にもだいたい出た。勉強も短時間ながら毎日していた。このような共同生活のペースを考えてルールを提案したのはやはり滝川である。卒業後、彼は気象庁に入り、自分は土木研究所に勤めるようになった。実務を対象とした研究生生活という点で同じような道を歩くことになった。そのころ、彼は寺田寅彦に惹かれていた。彼は寺田寅彦のことを「科学する心」と表現して楽しそうに話していた。気象庁に入ってから、コンピュータ解析による気象予測を専門にしていた。滝川は、昨年気象庁長官になったが、地球規模の環境問題の解明、「短期予測は良く当たるようになったが長期予測が当たらない原因や最新の気象予測の問題点など、滝川の、あのわかりやすい話し方で、解き明かしてくれるだろう。（石崎勝義／秋山順一記）

<http://www.ne.jp/asahi/mitaka/club/kon27.htm>

CiNii論文

<http://ci.nii.ac.jp/author?q=%E6%BB%9D%E5%B7%9D+%E9%9B%84%E5%A3%AE>

2001/10/18

33-S1-1D

田島
陽太郎

卒業後40年の足跡

先日の同時多発テロでは、95年に起きた阪神淡路大震災に匹敵する6千人もの人名が一瞬のうちに失われるという、筆舌に尽くしがたい、憎んでもあまりある大惨事でした。

失われた人命には及ぶべくもないが、WTC/世界貿易センタービルの崩壊は、わたくしにとってはもうひとつの意味で激しい悔しさを禁じえない痛恨事であった。

S37年、機械工学科をなんとか卒業し、当時の八幡製鉄（現、新日鉄）に入社しました。

1ヶ月の導入教育を北九州ですぐすと、動き始めたばかりの堺製鉄所に配属になりました。

私自身は堺市の出身で、希望がかなったわけですが、製鉄製鋼の上流工程に先駆けて、日本ではじめ

ての'WIDE FLNGE BEAM MILL'としていわゆるH形鋼製造の専用工場でした。まだ稼動間もない工場だったので、可能

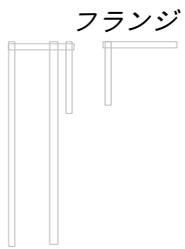
サイズの拡大や品質改善、能率向上、標準化、等々、配属早々毎日残業、日曜出勤と、学生時代の私からは信じてもらえないほどよく働きました。

東京オリンピックのあったS39年頃から超高層ビルの柱材・梁材として、H形鋼が一般的に使われるようになり、国内では三井霞ヶ関ビルや浜松町世界貿易センタービルに、厚肉のH形鋼が採用されました、ただし、肉厚はFlange=60mm,Web=40mm程度でした。

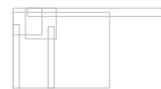
NEW YORKのWTCにはMAX FLANGE=127mm厚,WEB=85mm厚と超極厚肉が採用され、ほとんどの鋼材が堺製鉄所で



製造し出荷しました。材質（強度・靱性等）の確保のため成分設計から圧延温



ウェブ



度の
制御
・熱
処理
、品
質保
証の
ため
のU
S T
(超
音波
探傷)
、真
直度
保証
、次
々と
現れ
る
難問
との
戦い
はま
さに
、プ
ロジ
ェク
トX
並で
した
。そ
んな
苦勞
から
30
余年

を経て

定年で暇になったら、NEW YORKでW
T Cの実物を見て、

110Fからの景観を楽しむ長年の夢が漸く実現する寸前の出来事で、口惜しくてなりません。その後、数次にわたる設備増強を経て、S37年に6千トン/月でスタートした堺大形工場は、S48のオイルショック直前には10万トン/月、現在は13万トン/月まで発展しましたが、ご多分に漏れず、建設不況のなかで赤字3兄弟などと揶揄されながらなんとか生き延びているところのようです。レッドソックスの野茂やバレーボールで黄金時代を築いた堺製鉄所は遅れて稼動した高炉・転炉など上流工程も90年(H2年)には、休止・廃止となり、昔どおりの大形工場だけの単圧製鉄所に戻りました。私はS55年に大形工場長を最後に形鋼から離れ、鋼管部門を8年間経験したあと、S63年(1988)からお門違いのコンピュータ会社(=NS&Iシステムサービス(株)、新日鉄と日本IBMの合併で中小型機器の販売とソフト開発等を社業とする)に出向し、関西地区のソフト開発部門を担当した。94年に新日鉄を定年退職、99年には、NS&Iの定年となり、

その後は嘱託として、1年ごとの契約を3たび更新して現在に至っています。大阪在勤のまま、全社のソフト開発の原価管理・収益管理を担当しています。

本社は江東区冬木で東西線の門前仲町から5分位のところ、毎月1,2度は出張しています。昨年ぐらいから年金生活に入りたくてうずうずしていますが、もう暫くはだめみたいです。

仕事を離れて家庭の話に行きます。S42年、冒頭のWTC向けの製造や設備増強に明け暮れていたさなかに見合いで結婚、男、女、男の3人の子を得ました。一番下のが今年3月、大学院を修了して、東芝に入り横浜住まいなので、堺の方は家内と二人だけになりました。

長男、長女とも近くにいるので孫を見せにか、食事をしにか、しょっちゅう入浸っています。

孫は計3人、歌の文句どおり可愛いもんです。

つぎに、交友関係は、高校までを過ごした大阪の南部に住んでいることで、高校時代の連中とのつきあいが頻繁で、飲み会だゴルフだと、会の名前が違ってても、メンバーはいつも一緒と女房連中からも呆れられてい

ます。また、関西地区にいる東大の37年卒で、もともと文系の

集まりだった「卯月会」なる会に入会させられて6年になります。年2回のゴルフと4回の飲み会が定例会で、ほかに任意の集まりもたまに誘われて交流しています。最近は機械の仲間を誘って技系の勢力拡大中です。年次を超えての集まりに関西機械科同窓会や関西東大会もあるようですが、なかなかそこまでは手が回りかねています。そろそろ紙面も終わりそうなので、今日はこの辺で失礼します。駄文、お許してください。

1. 科研

<http://kaken.nii.ac.jp/d/r/30012917>

2. [東海地震の発生源となる富士川断層の地学的調査研究](#)

本研究の対象である富士川断層は、歴史時代・地質時代を通して過去の東海地震をくり返し発生させてきた断層と推定されている。この断層は、駿河トラフの北方延長として、富士川の河口に上陸し、さらに北上するのであるが、その長さは長大であり、いまだ全容は十分には把握されていない。しかしながら、今回の調査により、南部については精度の高い調査結果が得られた。断層の南端部は、富士川の右岸堤防に沿っており、蒲原地震山の東を通ることが、国鉄によるボーリング結果を参照することにより判明した。断層の変位量は1万数千年間に百数十mの西上がり鉛直成分を示し、左横すべり変位量はさらのその数倍あるものと推定される。松岡地震山の東側でも、富士市水道部の深井戸資料により、同様の推定が可能となっている。富士山西側斜面では、溶岩流の精密な分布状態を求めた結果、断層により溶岩流が最大300m左ずれに変位し、また溶岩年代が新しくなるにつれ、変位量の累積値が小さくなることが分かった。

6年前より開始されている光波測量による富士川断層の連日観測が本研究の期間も継続され、数kmの測線長あたり、年平均約2mmの短縮が北西-南東方向に進行していることが求められた。この傾向と量は地震と地震との間に期待されるものであって、東海地震へ向けた地殻活動がまだ加速段階には入っていないと解釈される。今後、長期にわたって現在の観測態勢を維持して行くためには、手動で実施している観測を自動化する必要があるが、そのための技術開発をおこない、実現可能の見通しを得ている。単測線の自動観測については、すでに3シーズン、10分間隔の24時間観測に成功した。その結果によると、測線長の相対的变化を求めるためには、必ずしも反射点における気象補正は必要とせず、従来通りの観測点補正で良いこと、長期の自動観測への必要条件が求められた。

中井英一

青木 至 様

ご無沙汰しております。早めにクラス会のご案内をいただきながら、返事が遅くなり 申し訳ありません。出席するつもりで楽しみにしていましたが、当日地元の行事と重なり残念ながら欠席させていただきます。同期の皆様によろしくお伝えいただきたく、また、盛会をお祈りいたします。簡単な近況を以下に記します。大学を出てからは、三菱マテリアル（株）（当時の三菱金属鉱業（株））に入社し、ずっと原子力分野、特に原子燃料サイクル関係の仕事に従事してきました。約8年前の平成5年にPWR発電所用の燃料を製造する三菱原子燃料（株）（略称MNF）に転社し、今年の6月に同社副社長を退任して顧問に就任するとともに子会社でMNFの原料と製品の核燃料物質の輸送を担当する（株）エヌ・エフ・ティ・エスという会社を見ることになり、今日に至っております。MNFの本社、工場とも茨城県東海村にあり、NFTSの本社も同じ敷地内にあるので、水戸の自宅から東海村まで毎日約30分車で通勤しています。2年前にはわずか1Kmしか離れていない同業者のJCOでまさかの臨界事故が発生し、原子力に対する信頼を失うとともに東海村も一躍有名になってしまいました。最近ではテロに対する警戒など規制強化と厳しい事業環境に苦慮している毎日です。原子力分野では、同期の鈴木光雄氏が青森の日本原燃（株）の専務取締役として活躍しておられます。家族は、お陰様で娘が2人とも片づき、それぞれ1人ずつ孫も生まれて東京と広島にいますので、現在、水戸では家内と2人暮らしで、茨城の自然を楽しんでいます。水戸や東海村にお越しの機会がありましたら、ぜひ声をかけて下さい。原子燃料工場の見学も歓迎します。

敬具

中井 英一郎

自 宅 住所 〒310-0804 水戸市白梅 2-3-60 ハイッしろ梅 B-402
TEL & FAX 029-246-0326

勤務先 名称 三菱原子燃料（株）、（株）エヌ・エフ・ティ・エス 住所
〒319-1111 茨城県那珂郡東海村舟石川 622-1 TEL 029-287-
8000 FAX 029-282-7775 E-mail eiichiro_nakai@mnf.co.jp

名越英夫

ご案内を有り難うございました。誠に残念ながら、当日は姪の結婚式で、阪神地区へ行きますので、欠席いたします。高松、吉原、窪田、矢口、南条、本田君など各氏によりしくお伝え下さい。近況は、日本CRO協会の専務理事としてまだ働いています。皆様方がCROをよくご存知無いと思いますので、一言説明をしておきますと、CROとは Contract Research

Organization の略で、医薬品や医療産業の分野での研究開発をアウトソーシングで引き受ける企業です。まだ10年くらいの若い産業ですが、年率30~50%の急成長を遂げています。玉木先生もお元気なことと思います。よろしくお伝え下さい。

名越 英夫

南條道昌

建築を学び、空間の構成がもたらす人間の視覚・知覚への働きかけ、明暗、連続性、快適性 何かを思わせる力、快適さ以上の想像喚起力、究極は光のコントロールであることを悟る。 - ひとつひとつの建築についてではなく、群としての建築=都市あるいは集落に興味の対象を絞る。好きな建築家、ガウディ、嫌いな建築家、ル・コルビュジェ。

仕事の概略

1. つくば研究学園都市のマスタープランチーム。街のコンセプト、構成、交通、道路のシステム、環境等。何も無い場所に、政府系教育・試験研究機関の移転を中心とする新都市を整備育成する計画。以来35年以上、私のライフワークのように様々な局面で関わる。しかしながら、街をヒューマンスケールで創る面で一種の失敗作でもあり、修復を試みるが困難。
2. 日本万国博覧会（1970, 大阪）会場計画チーム。会場の造成、道路・駐車場の計画、主要施設の配置。尾根筋の構成を読み、谷筋に必然の出会いの場があることを大切にする会場計画、しかし全体に禱り鉢型の会場にするというドグマに負けて、大造成を余儀なくされる。後に禍根を残す。
3. 札幌オリンピック真駒内会場計画。森林公園を予定する河岸段丘地に、スピード競技場とアイスアリーナを景観を配慮して配置。ニレの木を残すために道路にS字曲線をあえて採用。景観スタディの手法開発。
4. 埼玉県利根地域・比企地域開発構想。利根 I I I・中川水系の利水・治水と農業・宅地開発の関係のあり方を踏まえた開発軸を提案。自然の微地形を活かした地域形成論。後の見沼開発条件論に結びつく。一定割合の遊水池設置の義務づけ。地下水脈を切らない。

東武高坂丘陵・厚木丘陵の開発計画。地形の持つ傾斜度の分布によって、開発グレインを定め、斜面の緑を残す計画技法を開発。
5. 博記念公園・基本計画・基本設計・一部地区実施設計。のびのびした空間と細かい壁のある空間の突き合わせ、同一空間の質の3分限度説による設計。唯一の恒久作品か？春の泉、紅葉谷、今も気に入る。

沖縄国際海洋博覧会・会場計画・建設管理。開会式の前夜まで徹夜の作業。大阪万博のアンチテーゼ、自然、海洋がテーマ。コンパックス型の会場。沖縄県の生きる姿についての計画論。観光立県の一点づくり。

つくば中心市街地計画。当面の住宅施設の建設。学園センタービルの実現手法。イベントの開催。

つくば科学技術博覧会の形成。中心市街地との複合対応。民間の興味、力の発揮なければ、都市形成は出来ないこと。民間の興味と立地を引き起こす手段としてのイベント活用。

大阪花の万博、政府出展、建築担当プロデューサー。4建築複合による街的空間の形成。人のコントロールは、いかに難しいかを実感。

多摩センター形成戦略。多摩フェアの企画。多摩センター駅の一日乗降客を10万人にする。
汐留・埼玉新都心。国鉄遊休地の市街化による都市の変革。基本構想・基本計画。
地方都市の中心市街地活性化への取り組み。中津、都城など。国土交通省シビックコアアドバイザー。
都市イベント企画会議・都市環境デザイン会議・日本都市計画家協会の立ち上げ。都市イベントサロン、
都市計画キャラバン、JUDI賞選考などの事業を興す。継続中。、現在、都市再生一号事業などを担当中。
家協会の中の活動として、今道先生を受けて、ウルバニカ研究会。2004静岡園芸博プロデューサー。
井上孝先生率いる都市探検隊に参加。世界各地の都市歴訪。文化理解の肥料。

略歴などなど — 本田 久幸

1960～1962	工学部応用物理学科物理工学専修
1962～1964	物理工学修士課程
1964～1999	帝人株式会社
1964～	Megamedia Corporation

- ・ 帝人入社後中央研究所に約9年。新繊維，新フィルムの開発に従事。新製品開発の難しさ，楽しさを学びました。
- ・ 帝人アメリカ（ニューヨーク市）に約6年半出向。研究開発部門、化成品事業部門のアンテナ役を勤めました。アメリカの懐の深さ、アメリカでの仕事の進め方を学びました。
- ・ 帰国後フロッピーディスク生産の合弁会社設立に端を発して、定年までフロッピーディスクにどっぷりかかりました。フロッピーディスクの中に入っている丸いペラペラしたもの《業界用語でクッキーといいます》の販売に傾注し、世界のシェアの20%強を握り、世界中で Mr. Cookieと呼ばれ、この事業利益が帝人の他のすべてよりも大きかった数年間、私の勲章です。
- ・ クッキーもライフサイクルが終わり、それと共に定年退職しましたが、台湾の顧客から誘われて営業担当としてMegamediaという台湾の会社に入社し、1年弱台湾住まいをしました。
- ・ そこにはアメリカに子会社があり、そこが業績不振ということで再建を頼まれて約1年、その子会社で社長業をやりました。黒字化には至りませんでした。再建の目途はつきませんでした。
- ・ 現在は日本駐在として、日本顧客を主に欧米の顧客も一部担当しています。日本では主にDVD Videoの委託生産を受けています。

- ・ オーケストラ、室内楽の演奏、ワインが趣味ですが、家内とヨーロッパを順次まわるのを楽しみにやっております。それといわゆるアウトドアも最近楽しみ始めています。

品質管理検定初代運営委員長 吉澤正先生を悼む

<http://www.jsa.or.jp/kentei/qc/pdf/tsuitou.pdf#search='%E5%90%89%E6%BE%A4+%E6%AD%A3'>

平成25年1月品質管理検定運営委員会委員長（統計数理研究所 副所長）椿 広計 平成24年12月17日、品質管理検定初代運営委員長（第1回平成17年6月7日～第16回平成24年10月11日）、筑波大学名誉教授の吉澤正先生が他界されましたことをご報告申し上げます。73歳の御生涯でした。ここに品質管理検定の運営に携わるものを代表して謹んで先生に哀悼の意を捧げると共に、生前の吉澤先生の品質管理検定運営に対するご尽力に心からの感謝の意を捧げます。吉澤正先生は、故森口繁一先生の薫陶を受け、1960年代黎明期の我が国計算機科学、特に数値解析分野を、その後1970年代には応用統計分野で計算機の支援を必要とする探索的データ解析の研究という今日のビッグデータ時代の先駆けとも言える分野を切り拓きました。先生は常に単なる理論研究だけでなく、それを広く産業界、社会全体に普及啓発するということにも心をかけられた態度は、生涯一貫されておりました。1980年代以降、山梨大学時代には赤尾洋二先生とそのグループと共に品質機能展開の研究に取り組むと共に、ソフトウェア産業界の品質管理などで活躍されました。1990年代以降は環境マネジメントシステム規格作成とそのわが国への普及や官庁統計分野の調査技術開発でも陣頭指揮をとられると共に、筑波大学の経営系夜間社会人大学院創設にも尽力されました。そして、品質管理検定は、先生の力なくしては決して創生されなかったものと信じます。このように、吉澤正先生は時代が真に求める方法論のパイオニアとして先駆的研究を推進すると共に、研究者以外の多くの方々、社会そのものに大きな影響を与えてきたのです。これは、先生の先見性や多様な価値を受容する包容力の為すところと共に、その高潔な倫理観のなすところと考えます。先生は品質管理検定が単に品質管理関係者のためのもの、あるいは単に品質管理の普及啓発のための事業とせず、日本社会にとって必要な仕組みとなることを強く期待されていたのです。そして品質管理検定の創生期にあった様々な困難も運営の方針を基に的確に指導され解決され、今日の品質管理検定制度の発展を実現したのです。2小職が先生に代わり運営委員長に選出されたのは、平成24年10月11日の運営委員会です。品質管理検定の立ち上げから今日に至るまで、まさに品質管理検定運営の陣頭に立たれ、リーダーシップを発揮されていました。平成23年秋に体調を崩されてからも品質管理検定については、必要な指示を病床から与え続けられました。吉澤先生の快活なエンカレッジメントをもう受けることができないことは大変悲しいことです。しかし、品質管理検定関係者一同、吉澤正先生の志を引き継ぎ、社会のために本制度を発展させてゆきたい、ゆかねばならないと考えているところです。

著作一覧：

<http://www.nikkeibook.com/writer/1963/>

あの人スパイシー：

<http://spysee.jp/%E5%90%89%E6%BE%A4%E6%AD%A3/1161114>

